

私の留学生活

林 丞緯
経済学部 4年 台湾

私が日本に留学に来てからもう4年半ほど経ちました。留学というとなんとなくめちゃくちゃ楽しいものであるイメージがあるかもしれませんが、この4年半の留学生活の間には、様々なことを経験してきました。楽しいときも苦しいときもありました。今までの留学生活で感じたことについて語りたいと思います。

4年半前、日本に初めに留学に来たときは、すごく興奮して、「やっと大好きな日本に来たぞ」、「日本の留学が始まるぞ」と思いました。自信満々でこれからの留学生活を楽しみにしていました。しかし、そのような自信満々の私は長く保たずに、がっかりしてしまいました。なぜなら、日本語が上手ではなかったからです。日本に来る前に、独学で日本語を学びましたが、実際に日本に来てみると、日本人の喋るスピードがすごく速いと感じました。私は常に、一体何を喋っているか分かりませんでした。相手の話を理解したいと思って、1回で理解できなかつたら、2回も3回も「もう一度お願いします。」と言ってしまいました。そして、やっと相手の話が理解できましたが、今度は自分の言いたいことがちゃんと相手に伝えられませんでした。その結果、私は日本人に嫌がられてしまいました。



私と話したくなくなるようなこともありました。日本では、会話をキャッチボールと比喻することがあります。私は相手が投げた言葉のボールを、すぐにキャッチしたいのですが、結局ボールは床に落ちてしまいます。そういう時に、特に苦しいと感じました。どうすればいいのかという思いが頭の中で何回も回りました。

その時、国際交流会のポスターを見かけたのです。そう。何もしなかつたら、日本語は絶対に上達になれません。とりあ

えず、参加してみようと思いました。実際に参加すると、交流会での日本人の方々が私の下手な日本語を気にしなくてゆっくり優しく話してくれて、心がすごく暖かくなりました。そのとき話してくれた方々のおかげで、私はだんだんスムーズに日本語が話せるようになりました。本当に感謝しています。

一方、留学をしてももちろん楽しいことがありました。特に、高野山ツアーで楽しい経験をしました。休みの日に、和歌山大学の観光学部主催「ばあむ高野山ツアー～歩こうや～」というイベントに参加して、観光学部の学生たちと一緒に世界遺産の高野山に行きました。私の国台湾には世界遺産はありませんので、世界遺産に行くのは初めてで、私にとって非常に貴重な経験でした。高野山にある奥の院や檀上伽藍、金剛峰寺などの神聖なスポット

を拝観しました。塔、堂、寺などの荘厳な建物を巡って、さすが世界遺産だと思いました。それから、お昼ご飯は、お肉やお魚が使われずに野菜や果物、海草など植物性食品を材料として作られた「精進料理」でした。「精進」とは、悪を断って善を行い、つとめに励むという意味だそうです。仏教では食も修業の一つと考えられていて、心をこめて料理をして、それをありがたくいただいて、心身を養います。それが精進料理だそうです。高野山の落ち着いた雰囲気の中でゆっく



りと精進料理を味わいました。とても美味しかったです。心身ともに満たされました。世界遺産の魅力を感じて、高野山が好きになりました。また高野山へ行こうと思いました。

留学生活には楽しい時も苦しい時もありますが、苦しいと感じる時もあきらめずにいろいろなことにやってみる、参加してみるという気持ちは非常に大事だと思うようになりました。そのためには、いろいろな方々と交流したり、いろいろな観光名所へ足を運んだりすることが大事です。それによって、留学生活がより楽しくなると思います。

これまでの留学生活の様々な体験は、私の人生にとっての宝物になりました。

My Study Life in Japan

LIN CHENWEI

Faculty of Economics / Taiwan

I have been studying in Japan for four years, and most people may have a very happy impression of studying abroad. But in fact, studying abroad also experience happiness and pain, so let me talk about it. When the plane took on landed in Japan, I was very excited. I will start my study abroad life in Japan! But this self-confident I did not last long. Because my Japanese is not good enough. Before I came to Japan to study, I learned some Japanese, but after arriving in Japan, the Japanese speak very fast. I didn't know what the person is talking about soon. To understand the person's explanation, I will ask the person to speak again. A few times, I finally understood what the person said, but I didn't know how to respond to him. So, the person didn't want to talk to me again, which made me feel very discouraged. But if I sit and wait, Japanese will not improve, so I participate in exchange activities to practice my Japanese. The Japanese at the exchange activities are very friendly and not dislike my broken Japanese. Of course, studying abroad has a lot of fun! During the holidays, I took part in the Koyasan tour, visited various stately buildings in the World Heritage Koyasan, and tasted unique Shojin cuisine. Finally, these experience of studying abroad made me realize that even if there are painful things, I must face it upright, so that I can live a happy life.

我的留學生活

林 丞緯

經濟學部 / 台灣

我來日本留學已經四年了，大部分人對於留學可能都抱有很歡樂的印象。但是其實留學也會經歷快樂和痛苦的事，這就讓我娓娓道來吧。

四年半前，當搭乘的飛機著陸日本的土地時，我非常的興奮，心裡想著，從今天開始我就要在日本展開我的留學生活了！但是這個充滿自信的我並沒有保持很久。這是為什麼呢？因為我的日文不夠好啊。來日本留學前，有學過些日文，但實際到日本之後，日本人講話的語速非常快，快到我常常不知道對方在講什麼，為了要理解對方解的話，我會請對方多講幾次，好不容易聽懂對方講的話了，但我不知道怎麼回應人家，結果對方就不想理我了，這讓我感到很氣餒。但是如果我都坐以待斃的話，日文是絕對不會進步的，所以我就去參加交流活動，多多和日本人交談練習日文。交流活動上的日本人都非常友善，不會嫌棄我的破日文，讓我很感謝他們。

當然留學有許多令人開心的事啊！假日的時候，參加了由和歌山大學觀光學部主辦的高野山旅行，參觀了世界遺產高野山裡的各式各樣莊嚴的建築物，來品嚐了獨特的精進料理，這次的旅行讓我喜歡上高野山，我一定還要再來。

最後，在這些留學生活裡，不管是痛苦也好快樂也好，都成了我人生重要的一部份。